

**【プロジェクト名】 「教職実践演習」の実施と教員養成カリキュラムの見直し****1 プロジェクトの目的・概要**

「教職実践演習」は教職課程修了時に、形成された教師として必要な基礎的資質の形成について評価・確認するための授業科目である。教職課程履修の全学生を対象として、平成25年度後学期から必修科目として開講している。開講を通じて、教職課程履修学生の到達度としての、教師としての基礎的資質形成について明らかにするとともに、その結果をフィードバックすることによって、大学における教員養成のカリキュラム全体の見直しへの発展がなされ、全学的な教員養成の水準の向上や、地域の学校教育の質的向上にも貢献するよう目論まれている。

また、「教職実践演習」では佐賀県教育委員会から指導者の派遣を得るとともに、佐賀市内中学校においても実務演習を実施している。これらの点で、地域のなかで地域とともに教員を養成する具体的な取り組みとなっているので、「教師の養成・採用・研修の一体化」に向けた1つのステップとなることも企図されている。

平成28年度から一部改訂（選択テーマA「地域・家庭との連携」について別パターンの新設、その他）が加わったテキストを引き続き使用し、実施した。

**2 平成30年度の実施状況**

**（成果）**昨年度に続き、担当者を入れ替えを行なった。9月27・28日の2回（同内容）担当者向けの事前説明会を行ない、実施内容・方法の周知徹底と円滑かつ実質を伴った演習実施への協力を依頼した。その際、実務演習（11月28日）の実施に関し、欠席者に対して別日時での追加実施を行ない、無理な場合は代替措置の対応を必ず実施するよう要請した。この点については、後学期後半の繁忙期での日程調整が困難な現状があることが浮かび上がった。また、代替措置を具体的に指示すべきとの指摘があった。これらの点に具体的に対処しながら、全学的なコンセンサスを得ていき、本演習の充実だけでなく、教員養成カリキュラムに関わる共通理解が醸成されていくものと思われる。

提出された小レポートでは、本演習の支援にあたられた指導主事の先生方からの貴重な示唆や、実務演習で新たな気づきを得たとの記述が多数あった。

**（課題）**テキスト中の記載について指導主事の方よりご指摘を受け、今後修正の必要がある。小学校での実務演習の実施形態についての検討を、引き続き行わなくてはならない。また、教育学部幼小連携教育コース在籍生が31年度に履修することを踏まえ、幼稚園教諭を想定したテキスト内容への改訂（内容追加など）の作業を引き続き進め、次年度の円滑な実施に備える必要がある。

**3 今後の予定等**

1月下旬：教職実践演習担当者および受講学生へのアンケート調査実施

1月23日：教職実践演習の本年度最終回